

高田幼稚園 長い歴史に幕を下ろす



二月二十八日、高田幼稚園の閉園式が行われました。高田幼稚園は、昭和三十三年に私設高田学園として当時の校長住宅を改造して開設されました。昭和三十四年、町村合併により仁多町立亀嵩幼稚園高田分園と改称され、昭和五十三年に仁多町立高田幼稚園として認可、昭和五十五年現在の園舎が完成しました。

少子化による園児の減少により平成十四年四月から休園となりましたが、昭和三十一年から休園までの四十六年間で三百六十人の子どもたちを送り出しました。

式では井上町長が「小学校と一緒に取り組んだ花いっぱい運動や夏の河川プールでの水遊びなど、地域や自然、人との関わりを大切に「明るくたくましい高田っ子」の教育方針を貫かれてこられた歴代のPTA会員の皆様や諸先生方に敬意と感謝を申し上げます」とこれまでの教育活動に対する感謝の言葉を述べました。

今後、園舎は地域コミュニティの場として活用していく予定です。



感謝の言葉を述べる井上町長

仁多米ブランドの更なる飛躍を誓う 第七回仁多米振興大会

第七回となる仁多米振興大会が二月十六日、奥出雲仁多米(株)十五周年記念大会として、関係者など約三百人を集めカルチャープラザ仁多で開催されました。

来賓祝辞で、米・食味鑑定士協会の鈴木秀之会長から「価格ではなく高い品質、食味を目指す志を持って立ち上げたこの協会は、奥出雲町で開催した第九回米食味コンクールで大きく飛躍することができた。米政策が大きく転



秋沢社長の講演の様子

換される時代、ブランドが消えるかもしれないという危機感を持ちながらも、十年、二十年先を見据え、暗い方を見るのではなく明るい方を見ることが大事である」と力強い言葉が語られました。

鳥根県東部農林振興センターの研究発表の後、東京三越にも出店している米販売の老舗、(株)山田屋本店の秋沢淳雄代表取締役による講演がありました。

「東京では米を三食食べている人はほとんどいない。三食中二食が米の人でもまばら。この結果から都市部ではお米は既に主食ではないと認識している」と生産者にとっては衝撃的な話をされました。その上で「外食用需要は減っていない。生き残るため、どこをターゲットにして生産すべきか、消費者目線で考えることが大事」と持論を話されました。また、東京三越のお店で取り扱っている商



講演する和仁代表取締役

品の中で、一キロ約千円の奥出雲仁多米が販売量トップであることが報告されると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

続いて、岐阜県の農業生産法人(株)和仁農園の和仁松男代表取締役による講演が行われ、建設会社も経営する和仁社長から、農作業の平準化の試みについて詳しく説明がありました。「建設業では当たり前前の工程管理、従業員の定時労働と年収から逆算した原価率、売値設定など、従業員が安心して働ける利益の確保と環境づくりが担い手育成につながる」との持論を展開されました。

来場者は、仁多米の更なるブランド化への参考にすべく真剣に聞き入っていました。

仁多郡林業研究グループ



響繁則オロチの深山きこりプロジェクト実行委員長(左)と大島重昭仁多郡林業研究グループ会長(右)

全国林業グループコンクールで農林水産大臣賞受賞

二月十八日、東京都で開催された平成二十五年全国林業グループコンクールで、仁多郡林業研究グループが中国・四国ブロック代表として発表し、最高位の農林水産大臣賞を受賞しました。

このコンクールは、自主的な活動で地域の振興・活性化を図っている林業グループの活動成果等を発表し、グループ相互の発展と資質の向上を図ることを目的に昭和四十七年度より開催されています。

同グループは、「健全な森を次世代へ」をテーマに、木材価格の低迷等により間伐が遅れ荒廃した森林の再生と保全活動に取り組んでいます。「オロチの深山きこりプロジェクト」などの自伐普及活動や子どもたちへの森林環境教育など、地域住民一体となったグループ活動が高く評価されました。

また、今回の農林水産大臣賞の受賞は鳥根県初の快挙となりました。

高度なスキー技術を競う 全日本スキー技術選手権大会出場者を激励

第五十一回全日本スキー技術選手権大会に出場する安部大地さん(下横田)の激励会が三月四日、役場横田庁舎で行われました。

この大会は、あらゆる斜面、雪質に適した滑りをより速いスピードで表現する高度な技術を競うもので、ゲレンデスキーヤーの頂点を決める大会です。

安部さんは「これまで合宿などで鍛えてきた成果を十分に

に発揮し、県代表として予選で戦った選手の分まで頑張りたい」と意気込みを語りました。大会は三月十日から十六日にかけて、長野県の白馬八方尾根スキー場で開催されました。



▲意気込みを語る安部さん(右)

(株)安部建設 消防庁消防団協力事業所に認定



▲安部正教代表取締役

株式会社安部建設(下横田)が、消防庁消防団協力事業所に認定され、消防庁より認定表示証が交付されました。

この制度は、消防団活動団員確保等に積極的に協力しているとして市町村が認定する消防団協力事業所のうち、特に顕著な功績が認められる事業所に、消防庁から表示証が交付されるもので、地域の消防防災力の充実・強化等をより一層推進することを目的としています。

今年度は鳥根県で唯一、奥出雲町では初めての認定となりました。



プロバスケットボール選手と交流

二月十八日、BJリーグで活躍するプロバスケットボールチーム「鳥根スサノオマジック」が主催するトップアスリート事業が、亀嵩小学校で行われ、同チームの現役選手らが亀嵩小学校全校児童と交流しました。

児童によるスサノオマジックを応援するときの掛け声「ゴーゴーマジック!」が、体育館に響き渡る中迎えられた選手とコーチは、早速基礎練習に取り組みました。

ジュニアチームも指導している末松勇人コーチから、腰

を落としたサイドステップや二つのボールを使ったドリブルなどを教わり、子どもたちは、普段したことのない動きに戸惑いながらも、集中して練習を行いました。

最後に、山本エドワード選手と朴航生選手の二人だけチーム対児童チームの試合を行い、選手たちのダンクシュートや素早いドリブルに驚きながらも、子どもたちは負けじと応戦。協力して得点が決まると、応援している子どもたちから大歓声が上がりました。